

議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和2年8月21日（金）
9時56分～11時42分
第4委員会室

【出席者】 三浦委員長、西川副委員長
村武委員、川上委員、小川委員、野藤委員、
笹田委員、芦谷委員、佐々木委員、澁谷委員
【事務局】 下間次長、小寺書記

議題

1 議会だよりのリニューアルについて……………資料1

- (1) 市民対談（仮）の宿題確認

- (2) 柏村印刷株式会社からの新レイアウト提案

- (3) その他

2 議会報告会に替わる広聴機能の拡充について……………資料2

- (1) 広聴機能の拡充の宿題確認

- (2) その他

3 その他

- (1) 議会だより読者アンケートの回収箱設置……………資料3

【次回委員会開催予定】 令和2年9月7日（月）個人一般質問終了後 第4委員会室

【議事の経過】

[09時 56分 開議]

三浦委員長 少し早いですが、議会広報広聴委員会を始める。出席議員は10名で定足数に達している。事前に配信の議題にのっとって進めたいが、議題に入る前に事務局から報告事項がある。

小寺書記 このたび、はまだ議会だよりVo1.58ができて全戸配布を進めているのだが、1件誤字がある。表紙のトピックス部分が、トピックスになっていた。事務局内でも気づかず申しわけなかった。以後気をつける。

1. 議会だよりのリニューアルについて

(1) 市民対談（仮）の宿題確認

三浦委員長 前回の委員会で、各自アイデアを持ち寄っていただく宿題としていた。事務局がまとめてくださっているので、各委員から案を簡単に紹介いただきたい。

村武委員 子育て支援を浜田市でも充実していきたいというのがあると思うので、浜田市PTA連合会会長にお話を聞いたらどうかと思った。照会依頼先は浜田市PTA連合会でよいと思う。

川上委員 山根公利さん。ガンダムのメカニックデザイナーをされている。有名なガンダムの陰に隠れたデザイナーとして、地方の生活になじみ、何げなく暮らす現状と将来を聞いてみたらどうかと。

この方は東京で作業されていたが、十数年前にこちらに帰ってこられた。もともと生まれは川本で今は金城に住んでいる。現在月1回程度で東京に行かれている。こういう方に現状と将来を聞くのも手かと思う。川越ビバップをメインでされていた。現在でもそういう形でガンダムに関係したメカニックデザイナーをされている。

小川委員 コロナ禍で影響を受けている業種、タクシー、バス、旅館、ホテル、観光、医療従事者、こういうところはかなり経済的影響含めコロナ禍の影響が大きいと思うのでクローズアップしたらどうかと。前回の定例会議ではひとり親、水産加工業者、大学生の方々がコロナ禍の影響について話をされているが、まだ把握できてない部分をつかむ必要があると考えた。

野藤委員 浜田市が一番の課題は人口減少や定住という市の大方針があるの

で、この辺をまず第1回目によいと思った。

地域おこし協力隊として来ておられる方、県内で注目される方もおられるので、都会から来て田舎の魅力について生の声を聞きたい。近年の移住・定住者について。川上委員が提案された山根さんもそうだし、それを聞いて旭町の佐々岡健次さんを思い出した。浜田市の妖怪を掘り起こして絵にしておられるのでおもしろいと思う。そういう方のほうが、興味関心があるのかと思い提案した。

笹田委員

こういう状況なので、候補者は誰でもよいがZ o o mで対談ができればと思っている。

芦谷委員

始めるからには入口でコンセプトや何回やるかを決めておく必要があると思っている。アンケートには市議会への辛辣な意見もあるので、市議会に対する意見なり提言がある人がいないかと思った。

地元紙を中心としていろんな人物は載っており、おっかけになるので、市議会とすればあまり光の当たってない県大生、学生、外国人という人たちのほうが、切り口が新鮮でよいと思った。

佐々木委員

これまでもいろいろな取り組みをしてきた。市民が参加することでより議会だよりを見る人が増えてよいと思う。他市事例を見ると長く続ける観点からしても、いろいろな分野・立場・普段取り上げられないローカルな方など、あらゆる人を取り上げていければと思う。

その時々で旬の話題にいる市民や、素朴だが地道に地域のために頑張っておられる方、消防団、市民貢献された方、学校行事や部活動で頑張っている子どもたち、いろいろな人を取り上げていけばと思う。

澁谷委員

市民の各階層、各職域から選んではどうかと思う。スポーツ・文化に限らず全国大会出場の高校生、文化協会や体育協会から推薦されたとか、わんぱく大将とって小中学生が自慢できる同級生を推薦してもらおうとか、そのような人を取り上げたらどうかと思う。

西川副委員長

ふだん市議会だよりを見ないような、関わりの薄い方を取り上げたらどうか。1つは若者。何か受賞された高校生、大学生でサークルを主宰されている方などおもしろいかと思う。あとは女性起業家、地域で活動される女性、地域おこし協力隊のIターン、地元民が気づかない、浜田の魅力を語れる方などはどうか。

三浦委員長

執行部も関係人口という冠をつけた課を新設された。県外在住の

浜田市出身者がよいのでは。在京浜田会を初め、県外の浜田会があるのでそういう所に照会依頼をかけるとよいのではと思った。

田中輝美さんという浜田市出身の方で、来年度から新設される県立大学の学部の准教授になられる方が、関係人口について博士論文を書いておられて、こういう方に時のキーワードをインタビューしてもおもしろいかと思った。

それから浜田も最近力を入れている海洋教育について、NPO法人浜田ライフセービングクラブさんが最近新しい拠点を作られて活動を始められたので、紹介も含めて海洋教育という切り口で話を伺ったらどうかと思った。

それから地域スポーツという切り口で、ベルガロッソ浜田というサッカーチームがある。ここのプレイヤーはサッカーをするために結構県外から移住してきて地元企業が受け入れて応援しながら、という非常におもしろい人口流入の1つの仕組み。最近新聞にも出ている。彼らも地域スポーツという切り口でよいと思う。

市民活動は様々あると思うが、例えばサーフィン協会の方々、海を美しくする会の方々が定例的に浜の掃除をされているが、若い方も多いしインタビューするとよいのではと思った。

それから唐鐘でふれあい食堂をやっている方がいる。こども食堂は浜田市内でここ1カ所。地域の方が食事づくりのお手伝いなどされてすごくよい雰囲気とあって、こういう方々の活動も紹介できたらよいと思った。

それぞれの方もおもしろそうなので、これをベースにしながら次回からどうするか考えたいのだが、次号ではまずどなたが第1号になるのがよいか決めておきたい。1回で終わる話ではないので、今回選ばれなかった方にも機会がある。具体的に団体名や名前を挙げてもらっている方もいるので、こういう方から選ぶとよいと思う。自薦他薦、ご意見をうかがいたい。

村武委員

三浦委員長のご推薦された、関係人口での田中輝美さんが、来年度から県立大学の准教授でも来られることと、関係人口に力を入れようとしているので大変おもしろいと思った。

他にも団体が推薦されているが、同じような活動をする団体が他にもいらっしゃることもあり、公平性も考えないといけない。最初は田中さんがよいと思う。

- 野藤委員 名前が挙がっているのは田中さんと山根さんだった。どちらでもよい。今までの人生を語り、最終的に浜田の魅力について語るようなイメージが湧く。
- 川上委員 佐々木委員や澁谷委員が言われた、地域になじまれている方を選んだらよいと思う。
- 佐々木委員 こども食堂、コロナ禍の中で全国的に頑張っている方がいて、浜田にもそういう活動をされている方がいる。今にそぐう方だと思う。
- 三浦委員長 地域の活動というか、なにげない、暮らしと密着型で活動されている方々をピックアップして話を聞くのがよいというご意見が多かった。具体的に名前が挙がっている中だと、山根さんもそうだし、ふれあい食堂に関わっていらっしゃる方も地域の活動というのはあると思う。田中さんは非常におもしろい方だが地域の活動となると、関わっておられる方が複数おられるという視点を入れると、ふれあい食堂の方かなと思う。
- （ 「よいと思う」という声あり ）
- ご賛同いただけるということで、ふれあい食堂の方に相談して、受けていただければインタビューする。もし難しければ、皆の意見の中から別の方を決める方向で進めたい。
- 小寺書記 市民対談（仮）としている。タイトル部分はこれでよいか。実際にインタビューするにあたり、インタビュアーとカメラ担当が行かれると思う。11月号に載せるには、9月定例会議中に行っていただくことをご承知おきいただきたい。
- 三浦委員長 初回のインタビューは西川副委員長が担当してくださるとのこと、よろしいか。
- 西川副委員長 はい。
- 三浦委員長 タイトルはこれでよいか。もし提案がなければ正副委員長で、校正の時にでも考える。全体を見ながらまた提案したい。

(2) 柏村印刷株式会社からの新レイアウト提案

- 三浦委員長 この提案をいただくに当たり、より親しみやすくより市民の方に議会を身近に感じていただけるようなコンセプトでデザインしたとのこと。これは我々からも伝えていた方向性である。文字情報や色を変えるなどして視認性を高めたり、いろんな人に見やすいデザインをとということでカラーユニバーサルデザインを採用してくださっ

たり、あとは文章も読みやすい構成にする。見出しのつけ方も工夫してくださった。

デザインを見ていただく前に、昨日上がってきてこちらから要望したけれど反映し切れてない部分があり、100%の案でないことを前提に進めたいのだが、まず今回のリニューアルに当たり、もう1つの資料がある。これを皆と改めて確認しておきたい。

今回リニューアルされたものにカラーページを採用したいが、全面カラーができず、ページの組み合わせを配慮したために情報があちこちに行って、結果的に読みにくくなっているので再考が必要である。また、デザインの方向性についてもカジュアルにしすぎないよう修正が必要である。今まで採用したレイアウトは基本的に変えていただくようもう一度リクエストする。先方もこれまで議論しながら作ってきた紙面なので、踏襲できるところはするように配慮いただき今回の諸案を作っていたいただいているので、大きく変わっていないところもあるが、基本的に全体を見て変える所は変えるよう進めたい。

掲載の要素については確認として、定例会議の速報をきちんとやる。定例会議の概要を伝え、議決された注目事業をQ&Aを交えてきちんと解説する。議案賛否、請願、陳情、討論はこのようなものが出たと掲載していく。場合によっては、今は請願・陳情の全文が出ていないので、討論も要約と討論者の紹介までとし、全文はウェブ掲載にしたらどうかと思っている。これも皆で議論したい。一般質問は先般も議会運営委員会主催でSDGsの勉強会があったが、SDGsの目標に合わせて分類する方向で考えている。市民との対談は先ほどご提案いただいた形で市民の活動を紹介したり展望や要望も聞いたりする。議会ニュースとして小中学生の見学、視察受け入れ、コロナ対策支援本部会議から申入れしたことなど、議長団の活動ははまだ議会だよりminiでも取り扱ったらどうかと思うが、議会としての活動を載せる。

各委員会の活動レポートとして、委員会ごとに視察も行ったり、勉強会もしたり、それに準じた申入れの様子を書く。

今回から採用した読者アンケートは継続的に行って、トピック、毎回の簡単な質問と、市民の感想自由記入欄、またこの結果がどうだったかは次号で戻すこともやっていく。

最後は表紙写真の解説や次回定例会議の案内、傍聴、議会だより mini も見てください、来てくださいという案内、議長なんでもメールの案内、あとがきという構成で考えている。

これは前提なのだが、誤解や反映されてない部分があることを考慮の上で、改定案をご覧いただきたい。

(以下、資料をもとに説明)

案としては反映し切れてない部分もあるが、イメージをつかんでいただきながら、ご意見をさまざまいただきたい。

川上委員

定例会議のスケジュールは、言われた形が一番よい。それだけやってアンケート欄が取れるかどうかだが。委員会の活動レポートについては写真も大事だが、ここまで大きくする必要はあるかはわからない。個人一般質問はカラー化が望ましい。

小川委員

一般質問のSDGs目標設定の仕方だが、これは主観で選ぶべきか、客観的な選定方法があるのか。

三浦委員長

1つの物事を捉えた時に、ゴールも複数にわたるとというのがSDGsの考え方で、それが先般の研修でも解説されていた。その後JICAの方とも連絡して、こういうことでSDGsの推進を浜田市議会として考えていきたい、一般質問をこのようにテーマごとに割りたいと考えているという相談を個別でした。特にこれというものを1個掲げて、分類されるという表示は他でもされているよう。代表的なものを1つ掲げて、1つ取り組むことで複数のゴールを達成していくことを注意書きで入れるような形もある。もちろん1つで区切るのは難しいが、そういう感じでできないか相談中である。

小川委員

マークも含めて自分で「これでいく」として、校正の中で皆で協議しながら決めるということ。

アンケートは紙面に対する意見や感想などの話もあった。それを載せるとすれば、スケジュールを圧縮する必要があるのかと思うが、スペースは確保しておきたい。

三浦委員長

委員会活動の部分を、全部写真を載せる必要もないのかと私も思っている。例えば委員会活動を1ページにまとめて、アンケートの戻しをしないといけないと思っている。それが反映されていないのでまた考える。

野藤委員

個人一般質問の文字数は現状と比較して半分くらいか。

三浦委員長

半分程度だと思う。

- 野藤委員 当然写真も入れられないか。
- 三浦委員長 1人1枚くらい入れられるか。
- 小寺書記 その分、文量は減る、写真を入れることもやぶさかではない。
- 野藤委員 発言者の写真はもう少し小さくてよいと思う。伝えたいことがこの文字数で伝わるのかが気になる。
- 笹田委員 SDGsは色で分かれているイメージなのだが、モノクロだとわかりづらいのではと思う。
- 三浦委員長 まさにそこで、これが白黒になるとインパクトが相当小さくなる。ここは何としてもカラーにしたい。ただ、今の予算では全面カラーができないので、最初のページだけカラーにして、あとは2色刷り。来年度の予算要求が通れば全面カラーにできる。
- 笹田委員 最初の人だけカラーで、後の人が白黒になるのも問題では。
- 三浦委員長 上段だけフルカラー、下段は2色にして、公平性を担保することはできると思う。
- 笹田委員 今までは問と答弁者となっていたが、Q&Aか。文章は短くてもよい。今まで書きすぎてわけのわからない文章になっていたものも多かった。
- 川上委員 文字の大きさはどうなるか。
- 三浦委員長 今、例えば2ページの8月臨時会議のところは12ポイントか。11か12だと思う。記事になっている一般質問の文字が、10.5。新聞が9。どうしても載せなければならない情報量があるので、最低ラインだと思う。
- 川上委員 少し上げたほうが見やすい。
- 小寺書記 ポイント数は柏村印刷さんに確認して、この記事をどうするかも確認して、また皆にお伝えしたい。
- 村武委員 表紙のデザインがよいかどうかはわからないが、リニューアルした感じが出るので、A案のほうがよい。
- 芦谷委員 せっかく専門家に提案してもらったので、この委員会で構えだけでも話し合っただけで都度変えるのでよいと思う。もとを大事にしながらよりよくなるように。
- 佐々木委員 とりあえずこれでよい。
- 澁谷委員 やってみるしかない。ただ、せっかくよいレイアウトがあったとしても、今回、最終校正で写真を大きくして隙間をなくしてもらえなかったのか。きちんと運用できないと素人っぽい。ぜひお願いし

三浦委員長

たい。

これは我々も気をつけて要望したい。

では、今いただいた意見と伝えきれてない部分を早急に柏村印刷に戻して、次号の紙面構成を作っていきたい。引き続きよろしくお願ひする。

(3) その他

三浦委員長

その他、事務局からないか。

(「なし」という声あり)

2. 議会報告会に替わる広聴機能の拡充について

(1) 広聴機能の拡充の宿題確認

三浦委員長

簡単に説明をお願いします。

村武委員

今まで議会報告会、地域井戸端会をリアルに、会場で行っていたが、このコロナ禍で、今後どのようなようになるか予測ができない中、ウィズコロナを考え、今まで来てもらえなかった若い方、主婦を巻き込めるのではと思い、Zoom利用の議会報告会を提案する。

補足資料で2点ほどつけているが、調べると佐賀県の鳥栖市は10月24日にオープンザ議会を予定している。これはオンラインで議会報告会をする。それとあわせてリアルの報告会というか、いろいろ拠点を構えてそことオンラインで結ぶ。個人のオンラインだけでないというところを企画されているようである。

事例2として、東村山市議会においては、リアルではないようだが議会報告会の動画作成し、配信している。

ネットで調べた限りだが、それほど全国的に見てもオンライン配信は進んでないように感じた。これを提案する中で、専門的ではないと思うのだが、Zoom会議となると私たちだけでは難しいと感じた。島根県立大学の今野教授にも相談した。今野教授は地域の情報政策やICTを活用した地域活性化政策などを研究されている。相談したらゼミ生にも関わっていただきながら、活動を進めることは可能なのではないかと聞いていただいた。ぜひ県立大学としても市議会に協力させていただきたいと言われた。

私が考えた実施概要だが、個人でつなぐのがよいのかと思うが、今まで議会報告会に来られた高齢者の方なども参加したいという方

がおられたら、公民館等拠点を設けてそこに学生などを配置してオンラインで結んでいく形にすると、今まで以上にいろいろな方々の意見を聞ける機会になるのではと考える。

予算がどの程度かわからないが、Zoom契約が参加者100名までは月2千円の契約料がかかる。あとは広報費がかかるのかと。それほど予算はかからないと考えた。

川上委員

単に地域へ出かけようということなので、各地域の行事や町内会の常会等に委員が数名参加し、地域のお願い等について聞いたらよいのでは。浜田自治区内にあるか知らないが、あれば2人ずつ行けば、12町内行けるので相当意見を拾える。私も数件、今月の常会へ行った。浜田の施策について、老人福祉について教えてくれと言われた。健康医療対策課から資料をもらった。そうすればこれについて意見が出る。それができれば広聴機能としてはよいかと思った。

小川委員

先般の定数アンケートでも出されたように、市民の意見を聞く場を増やしてほしいとあった。令和元年8月19日の委員会資料を再度見返したのだが、結構具体的なところまで詰めてあったので、市民一日議会を試行的にやってみようとなっていたので、何とかこれが実現に向かわないかと考えている。

もう1つは、2人1組で、ご意見要望がある方は来てくださいとしてもよい。どちらもいくらかの予算はあるが、ほとんどは議員手作りでもどこもされているので、予算的にはそれほどかからないのではと思う。

野藤委員

議会だよりのことを書いたが、これはきっかけづくり。市民からの提案事に対して議会として具体的にどういうことか、掘り下げていくきっかけ作りとして、議会だよりのアンケートページを使うのかと。その先についてはまだ、どういう形かはこれから。オンラインも使い、対談も使い、実際に生でやるというのもよいのかと思う。意見の中から光るものを取り上げるのがよいと思った。

芦谷委員

前も言ったが、市長部局と議会とは情報共有して、市長へ陳情されたものは議会にも陳情してもらおう。市長に陳情すれば議会にも行っているという誤った認識があるようなので、あわせて市議会にも陳情してもらおうことだと思う。

ここに介在する議員も可能な限り市長陳情、議長陳情することだと思う。

地域井戸端会を出前議会としてやる。これは各委員会にある程度義務づけして、その委員会に関連の深い団体と調整しながら、団体と意見交換を行う。地域井戸端会を専門分野化する。

議会だよりのm i n i版が年4回プラスされるが、4回は市議会だよりの、あと8回はm i n i版を、印刷の最終工程に差し込んで、市の広報と間に挟むようにして出してもらいたい。

どうしても広報機能がないので、ぜひ、広聴も必要だが市議会がやっていることを、年8回市の広報に挟み込んで発行したらよい。

佐々木委員

議会改革でも同じことを何度も言った覚えがある。各委員会の所管団体などと懇談して、執行部への要望や情報提供を行っていく。中には提言につながることもあるかもしれない。町内会や、どの委員会にも分けられない団体も含める。

議会報告会をもう少し広範囲で回って地域要望を吸い上げる。班編成を少人数にしてより細かく回る。その際も聞き取ったものはなるべく短期で当該地域にお返しする。

要望を受ける懇談的な会を公民館を回って開催する。例えば何月何日、何時から何時まで何々公民館に議員が滞在しているので、要望や意見がある方はお越しくださいという取り組みをする。

予算についてはなるべくお金がかからない工夫をしながら。班編成など事前準備も必要になる。

澁谷委員

今の地域井戸端会のやり方に限界が来ている。その結果が先般のアンケート結果になっているのだろう。やり方を変える。違う団体との意見交換が必要だろう。あとは皆の意見がもつともだと思う。

私もここに団体との意見交換会と言っているが、以前福祉環境委員会であるグループから意見交換の要望があり受けたことがあるが、市民の生の声が聴きたいのだが偉い先生の話がされるとか、そういう話は聞きたくない。市民の生活実感や意見を聴ける形にしないと、自己満足の会になる。どのように持っていけばよいのかはまだ見えていない。

笹田委員

この前SDGsの研修をやったような感じでできたので、広聴機能を増やしていけばよい。

西川副委員長

読者アンケートを活用していきたい。毎回答えていただける設問を工夫して、リピーターを獲得して、リピーターを議会の傍聴や市民一日会議に誘導して参加してもらおう。こういう方々を市民モニタ

一の形で意見を定期的に聴ける関係になったらよい。

イベント会場に市議会ブースを確保して、活動展示などしながら来られた市民と触れ合う機会を設けたらどうかと思っている。

三浦委員長

小川委員からもあった市民一日議会という形でこういう場を企画したらどうかと。昨年度から話が出ていた。

2つ目は、公民館等へ出前相談会をする。まとめて人が来ると待ってもらわないとならないなど課題もある。出向く機会を増やすという意味で提案をさせていただいた。ちなみに市民一日議会はポスターやチラシ作成の印刷費等で数十万円程度の予算がかかると思う。公民館の出前相談会は議員が出向くので要相談で、できる限りコストを安くする。

Y o u T u b e チャンネルの開設はどちらかというと広報なのでここでは省く。

3つ目は常任委員会へ広聴機能強化の申入れをしたらどうかと思っている。広聴機能をこの委員会だけで高めていくのは、工夫をしてできるが、より議会全体で広聴機能が強化していくとなると常任委員会でも関係団体との意見交換をしていこうということを意識的に持っていただくよう各委員長へ、当委員会から働きかける。もう少し各常任委員会単位で市民との接点を持つていくため、全体的な広聴機能を上げることもやってはどうかと。これは意識の共有といこと。

皆の意見を伺って、それぞれよい所があると思った。今日これをやっていこうというまでの議論にはいかないが、他の委員のアイデアや意見を聞いて、気づいた点があれば共有したい。いかがか。

川上委員

広聴でこういう活動ばかりすると、これが議会だよりの1ページを担うことになりかねない。あまり期間を置かずにスタートしたほうがよい。対談だけでなく、これだけでも1ページかかる。市民一日議会もそうだし、公民館での窓口相談も、結果の報告にページを割くことになる。

三浦委員長

はい。

澁谷委員

常任委員会への広聴機能申入れはすぐ実施できる。市民一日議会や相談会はプランが要る。しかし新しい試みは来年の改選までに1回やってみたい。

野藤委員

よろず相談室の設置について。これも取り組みやすいのでは。全

- 議員でやってみればよい。その場で回答するわけではないので単純なことならつなげればよい。持ち帰るといふことではいかがだろうか。
- 下間次長 予算のところ、議員の皆をどこかに派遣するとなれば議員派遣の仕組みがあるので、多少は費用弁償がかかることはご承知おきいただきたい。
- 小川委員 コロナの関係で、春の議会報告会も地域井戸端会も中止せざるを得ない。平常時の広聴機能の部分と、今の状態がもしかしたら来年以降続く可能性があるとするならば、今出されている提案の中で言えば、これなら可能だということでは考える必要があるのかと思った。例えば全員協議会も本会議場でやるならば、密を避けられるならば市民一日議会も何とか可能なのかということもあるし、通常時も広聴機能を強化するならばこういうことだが、今こういう事態だからその中でできることを考えたほうがより現実的なのかなと感じたので。少し分けたほうがよい感じがした。
- 三浦委員長 そういう視点は踏まえて企画するべきだと思う。
- 芦谷委員 読者アンケートもある。いろいろ提案して、例えば公民館で意見を聞くのはよいが、段取りや、実際に人が来るかと言えば難しい。アンケートをあまねく市民に流して意見を聞くほうが。アンケートと議長なんでもメールをしっかりと充実してからでもよい。
- 野藤委員 PRの問題、出張相談会、例えば公民館でやるならば1週間くらい前から出前議会相談会といったのぼりを立ててみるのもよい。チラシでもよいが、目立つ仕掛けをしてもよいのかなど。
- 三浦委員長 村武委員が、県立大学との連携や、澁谷委員が高校生の生徒会執行部というのは、すごくおもしろい視点だと思う。
- 各常任委員会に広聴機能のヒアリングを申し入れしつつも、高校生や大学生の括りでいけると言いたいことも広がるだろうし、そうした世代、塊のところでは意見を聞きに行くことは、議会広報広聴委員会のできるどころかと感じた。その中で、Zoomやオンラインでやったほうがより行きやすいとか、参加しやすいということもあるのであれば、テスト的にそういう会をやってみるとか、高校生ともそういう接点を持つのは、今の浜田市議会がなかなかできていないところだとおもうので、そういう接点をこちらから持つと主権者教育的な意味合いもあるうだろうし、よいなと感じた。
- いただいた意見も参考にさせていただきながら、ご意見をまとめ

ではあるのだが、そこにせっかくボックスを設置するのでその横に、ご自由に議会にご意見をお寄せくださいという形で、設問を設けなければずっと入れ替える作業はないので、それは置いておいて投函してもらっても自由意見として扱うという感じでよいか。

(「はい」という声あり)

では、市内26館の担当をどう割り振るかだが、割り振り方についてアイデアをお持ちの方は。

川上委員

これは議会広報広聴委員だけか。

三浦委員長

最初はそう考えていたが、もちろんであれば全議員にお願いできればと思う。

佐々木委員

やはり皆でやらないと、取り組みの内容が共有できないのではないかな。

小寺書記

人数が振ってあるのは、この議会広報広聴委員10名で割るとという人数割りになっている。

三浦委員長

皆でできたら一番よいが。

芦谷委員

集計締切は今回9月末か。

小寺書記

はい。

芦谷委員

10月以降は回収ボックスは置かないのか。

小寺書記

常時置く。

芦谷委員

集計の締切というのがよくわからない。

野藤委員

集計の締切は私もおかしいと感じた。回収ボックスなので、回収時期とすれば。それから字が多いので、「はまだ議会だよりの最終ページに」よりは、ただ「はまだ議会だよりの最終ページに」でよいかと思った。「いただいたご意見」の「いただいた」は要らないのかなと。そのほうが字も大きくなるしわかりやすいかと。

三浦委員長

表現はもう少しコンパクトになるようこちらで考える。

小寺書記

今回のV o 1.59に集計したものを載せるとなると、発行に向けて納品日が10月21日と決まっていて、さかのぼると編集作業を10月1日にしなければならない。今回に限っては皆で1日には必ず回収してもらって、委員会を2日にできないか柏村印刷さんに相談しているので、1日の段階で集計して2日の委員会で記事として出して皆で相談できればと考えているのだが、いかがか。

三浦委員長

そのスケジュールで進めさせていただきたい。アンケート回収の作業自体をどうするか。まずは当委員会の委員でやろうということ

で、前回まではそのように進めてきたが、改めて、全議員に呼びかけたほうがよいという提案があった。

川上委員 時間の制約もあるので、9月については当委員会の委員だけでよいのでは。

三浦委員長 では今回は当委員会で割り振って行い、理想は全議員で分担して議会全体でやるのが望ましいということだったので、そのように相談もさせていただきながら進めるということで、9月はここで割り振らせていただきたい。

澁谷委員 議員にもテリトリーがある。議員関係がスムーズにいかない場合がある。最後は地元議員にお願いしたほうがよい。

三浦委員長 相談しながら。ルールを複雑化するのはどうかと思うが、例えば自分が担当しているところで地元議員に相談しながら。

澁谷委員 入学式、卒業式など、テリトリー以外の議員が参加すると地元議員からにらまれる。その辺は配慮したほうがよいのかなど。

野藤委員 初回はとにかくこれでやって、次から皆の意見をもらってということでもよいかと。

それから、アンケートだが、中身だけか、箱ごとか。

三浦委員長 中身だけ。

野藤委員 これはどこで回収したかは分けたほうがよいか。

三浦委員長 どこの公民館に何枚入っていたかは必要な情報なので、わかるようにしておいてほしい。

笹田委員 浜田市議会はテリトリーなど関係ないとは思いますが、確かに地域性もあるので、例えば弥栄担当者は串崎議員に相談するなど、そういう形をとればすんなりできるのではと個人的に思う。

三浦委員長 各地区で担当になった当委員会委員が、お近くにお住まいの議員に、情報共有すれば、周知されるという意味でもそれがよいと思う。できたら立候補制で。

(以下、分担協議)

浜田公民館＝野藤委員

石見公民館＝西川副委員町

長浜公民館＝澁谷委員

国府公民館＝村武委員

周布・美川・大麻公民館＝芦谷委員

金城の6公民館＝川上議員、小川議員

	<p>旭の5公民館＝村武委員、野藤委員 弥栄の2公民館＝笹田委員 三隅の6公民館＝佐々木委員、芦谷委員 ご協力感謝する。</p>
村武委員	<p>はまだ議会だよりは公民館に配布されているか。</p>
小寺書記	<p>1部ずつ送っている。</p>
村武委員	<p>私が以前公民館職員をしていた時に、はまだ議会だよりはファイルしてなかった記憶である。広報はまだはファイリングして来館者に読んでもらえるようにしていた。1部送っているのであれば、公民館の方にファイルしてもらい、ボックスの横にそういうファイルがあると見ていただいていない方にも見ていただけるかと感じた。</p>
三浦委員長	<p>公民館に複数部設置するだけの予備がないのか。</p>
小寺書記	<p>予備はあるが、今は全部の公民館に1部ずつは送っている。目的としては広報はまだと同じようにファイリングして保管してもらうために1部ずつ送っているのだと思う。</p>
三浦委員長	<p>設置の案内状を作らないといけないので、その中に、お送りしているはまだ議会だよりをボックスの近くにファイリングなどして見えるようにしてもらおうよう、注意書きに加えさせていただき案内状を作成するので、その案内状とボックスを事務局に取りに来てもらう。それで配布をご協力いただければと思う。</p>
笹田委員	<p>いつできていつ持っていくのか。</p>
小寺書記	<p>月曜にボックスの納品があるので、来週水曜にはお渡ししたい。取りに来ていただき、担当の公民館に配置していただきたい。</p>
三浦委員長	<p>生涯学習課にはアンケートボックスを各公民館に設置する話は通してあるが、各公民館にアンケートボックスを設置する案内は、生涯学習課からは行ってないか。</p>
小寺書記	<p>恐らく行ってない。添書での説明になると思う。</p>
三浦委員長	<p>生涯学習課との調整をお願いする。</p>
小寺書記	<p>はい。</p>
三浦委員長	<p>回収箱設置については以上。</p>
	<p>事務局から何かあるか。</p>
小寺書記	<p>6月のはまだ議会だよりの中身について。6ページで、真ん中の段の病児・病後児保育施設の回答で、「冠水対策では基礎を1メートル高くします。」という記載がある。これが、実施段階では50センチ</p>

の計画で進めているという話がある。ここについては予算決算委員会の答弁の中にあっただけだが、高くすると断言はしていない。今後のはまだ議会だよりの原稿を作る際、数字の書き方については気を付けていただきたい。この委員会でも、個人一般質問でも、全議員に一度周知したい案件かと思う。

三浦委員長

これについては、訂正をご案内する必要がある。

小寺書記

訂正したい。

笹田委員

答弁ではなかったのか。

小寺書記

50、60センチを例えば1メートルにするという話になると、という曖昧な言い方ではあった。

三浦委員長

微妙な答弁だったが、こちらが1メートルと断言してしまい、執行部側の意図と異なる。数字のことなので、次号で訂正させていただくということで、よろしいか。

(「はい」という声あり)

小寺書記

もう1点は当委員会の動画配信について。

通例的に当委員会はYouTubeへの動画配信はしていないのだが、今回の委員会でも広聴機能に関わる部分や、今後の議会全体としての取り組みで非常に重要な議論をしている委員会だと思っている。編集作業についてはカットするイメージだが、他の常任委員会のように当委員会もYouTubeに動画配信できればと思っている。委員のご意見をいただきたい。

川上委員

何の問題もない。

三浦委員長

特に問題がないようなら、他の委員会と同じように公開する。

小川委員

編集作業もカットする必要はないのでは。

小寺書記

はまだ議会だよりの内容が先に配信されることを避けるため。

小川委員

理解した。

三浦委員長

なのでそこはカットさせていただきたい。ではそのように進めさせていただきます。

では以上で、議会広報広聴委員会を終わりたい。

[11時 42分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀